

室のスタッフや分子研の皆さん、さらに分子研以外の研究者から「分子研特別奨学生としてふさわしい人物」と思われる様に努力することが第一の目標です。そのために、分子研特別奨学生は分子研の学生の中から選ばれた代表であるという自負のもとに研究を行い、国内外を問わず学会に積極的に参加することで、研究成果の発表や研究者との交流を行っていきたくです。そして、将来的には日本に限らず世界の研究者達から「優秀な研究者」だと認められ

ることを目標にして精進していきたくと思ひます。

私の所属している魚住グループでは毎週土曜日に行われるセミナーの中で、最新の論文を紹介し、議論を行っています。言語は英語であり、スタッフの皆さんの議論も難しいので、付いていくので精一杯ですが、私はこのセミナーを通して自分の研究分野に関する基礎知識の無さを感じると共に、このままでは目標の達成にはほど遠いと感ひました。このことから、基礎知識を習得

するために勉強に励み、自分が行っている研究の背景、世界的な位置付けや意義を理解して、それを第三者に対して分かりやすく説明する事を常に考えていることが、分子研特別奨学生として、さらに優秀な研究者として認められることへの近道ではないかと考えています。

最後に、私を評価し分子研特別奨学生に採択して頂いたことに感謝するとともに、その期待に答える活躍をしていきたくと思ひます。

E V E N T R E P O R T

教員報告 2011年度 総研大物理科学研究科セミナー

2012年度担当教員 理論・計算分子科学研究領域 准教授 柳井 毅

2012年2月9日～10日にわたり総研大物理科学研究科セミナー（大学院教育改革推進プログラム「研究力と適性を磨くコース別教育プログラム」の一環）が、静岡県浜松市ホテルコンコルド浜松にて開催されました。物理科学研究科の5専攻（宇宙、天文、核融合、構造・機能分子科学専攻）あわせて64名の参加者があり、構造・機能分子科学専攻からは学生7名、教員18名が参加しました。この学生セミナーは、当研究科の学生の企画・運営力の育成と5専攻間の交流の促進を主な目

的としており、各専攻から数名の学生が実行委員として企画・運営を行いました。開催プログラムの概要は、以下に掲載します。

企画1では、専攻をまたがるグループをつくり、LEGO MINDSTORMという電子ロボットの教材を用いた小規模な課題に協力して取り組み、目的達成度をグループ間で競い合いました。企画2では、博士取得後のキャリアに関して見聞を広げることを目的として、

上記3名の招待講演者から現職と博士研究との関係や就職などに関するお話を聴講し、博士取得者の多様なキャリアパスを考えるパネルディスカッションを行いました。企画3では、専攻混合の4～5人のグループ間で、各種テーマに関してディベート大会を行いました。このセミナーの開催のために、各専攻の学生委員が複数回の準備会議を重ね、手の込んだ企画が計画されました。その甲斐あり、高い団結力のもとで完成度の高いセミナーが実施されました。

開催プログラムの概略

2月9日 企画1「プロジェクトを通じた相互理解」

企画2「博士号取得後のキャリアパス」

招待講演

・坂中靖志（総務省情報流通行政局衛星地域放送課 技術企画官）

・高山英男（NHK製作局 科学環境番組部 ディレクター）

・佐藤健太郎（東京大学大学院理学系研究科広報担当 特任助教）

2月10日 企画3「ロジカルシンキングの実践的トレーニング」



E V E N T R E P O R T

学生報告 平成24年度前期学生セミナー

物理科学研究科構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程1年 橋谷 俊

4月12日と13日の2日間、総合研究大学院大学葉山キャンパスにて入学式及び学生セミナーが開催された。今年度の学生セミナーは「つながる」をテーマとして、昨年度の新入生から構成される学生セミナー実行委員によって3つのユニークなセッションが用意されていた。

最初のセッションでは「地域とつ

ながる」ために、葉山をモデルとしたゆるキャラづくりが実施された。ゆるキャラづくりは専攻が異なる8名程度のグループで行われ、それぞれの専攻の色がミックスした独創的なゆるキャラが出来上がったと思う。次のセッションでは「人（異分野の研究者）とつながる」ために、『農村の発展』を議題として自由に意見を交わした。こ

のセッションは夕食も兼ねており、お酒も入れたためか、会場が騒がしくなるほど活発に議論が行われていた。他専攻の学生の意見がどれも自分にとって新鮮であったり、各々の分野についての話に脱線すると自分の分野

について強く意識させられたり、と異分野との交流によって様々な発見があることを体験できたのは本セミナーで特に印象に残ったことである。最後のセッションは講演と研究者の考える美意識に焦点を当てたエッセイ集から「社会とつながる」ことについて学んだ。

本セミナーによって、特に岡崎三機関の学生と「つながる」ことができた。ここ岡崎を中心としてこれからも「つながる」活動を続けていきたい。

Shun Hashiyada

防衛大学校理工学専攻応用物理学科を卒業後、平成24年に総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻へ入学。光子科学研究領域岡本グループにて、貴金属微粒子の表面プラズモンに関する研究を近接場光学顕微鏡を使って取り組んでいる。



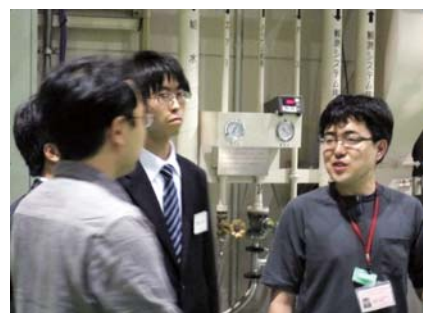
教員報告 分子研オープンキャンパス2012

2012年度担当教員 極端紫外光研究施設 准教授 木村 真一

2012年6月2日(土)に分子研オープンキャンパスを分子科学研究所において開催した。オープンキャンパスの参加者構成は、北海道から沖縄まで、学部学生26名、修士課程29名、博士課程2名、ポスドク以上の大学関係者6名、民間2名であり、合計65名(このほか分子研シンポのみの参加者が5名)で昨年度より大幅に増加した。当日は13:15より岡崎コンフェレンスセンター中会議室で、大峯所長、横山教授、青野教授、筆者の順番で分子研、総研大、共同利用、およびオープンキャンパスの説明を行い、明大寺・山手の両地区を14:00から17:00まで

各グループの実験室や研究室を自由に見学してもらった。天気には恵まれすぎて暑い一日であったが、見学には支障がなくて幸いであった。アンケートの回収率は昨年より悪く28%であった。参加情報の入手先は先生からの紹介67%、ポスター22%、ホームページ28%となっており、これまでと同様に、大学におけるOB等の分子研に縁のある先生方に支えられた形で成立していることを表していると思われる。実際、分子研OB・OGの教授が多くの指導学生を引き連れて見学していたのは印象的であった。また、大学共同利用機関のことを知っているのは

33%、総研大をよく知っていたのは11%と低く、知名度の向上がまず必要であると感じた。最後に、今回のオープンキャンパスの開催にあたりご協力頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



教員報告 分子研シンポジウム2012

2012年度担当教員 理論・計算分子科学研究領域 准教授 柳井 毅

分子研シンポジウムが平成24年6月1日(金)午後から2日(土)午前にかけて岡崎コンファレンスセンター中会議室で開催されました。このシンポジウムは土曜日のオープンキャンパスに連動する企画として、平成19年から始まり今年が6回目になります。所内4研究領域から推薦を受け、分子研に縁のある6名の先生方に講演をお願いしました。お話をいただいた講師と講演題目は以下のとおりです(講演順に記載)。

畠田 博一 (大阪大学)

「単一分子エレクトロニクス：ようやくここまで」

速水 真也 (熊本大学)

「分子間相互作用に基づいた金属錯体の機能探索～光スイッチング、液晶およびグラフェン材料の開発～」

高口 博志 (広島大学)

「イオン化学の反応ダイナミクス研究」

廣田 俊 (奈良先端科学技術大)

「タンパク質から成る超分子」

杉田 有治 (理化学研究所)

「細胞内分子ダイナミクスのシミュレーション」

彦坂 泰正 (新潟大学)

「短波長自由電子レーザーによる原子分子科学の新展開」

全国の修士課程の学生を主な対象として、各講演者の研究分野を紹介する話、最新の研究の様子、将来展望などをお話しいただきました。参加登録者は所外56名で、所内参加者や当日に所外から来た人たちを含めると70名以上の聴衆が集まりました。所外の参加登録者の内訳は、学部生24名、修士課程19名、博士課程3名、大学の職員4名、その他6名でした。総研大への進学や共同研究の提案・申請を促すことを意図して、各講師の先生には分子研との関わりや接点について触

れて頂きました。各講師のお話には随所で分子研や総研大への愛着が感じ取られ、我々にとっても大いに励まされるものでした。また、高度な研究内容が分かり易く講義され、参加学生からは積極的な質問もありました。初日の夕方には、所内外の学生、研究者の交流を深めるための懇親会が行われました。参加者の皆さんには分子科学の多様性ととも、その基礎を支えている分子研の存在意義を感じ取って頂けたものと思います。これも周到な準備をされた講師の先生方のご尽力の賜物と思います。お忙しい中、ご協力いただいた講師の先生方にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

